



KODOMO湿地交流「つるいっ子×自然戦隊マガレンジャー」IN鶴居村

KODOMO湿地交流つるい委員会では村からの補助を受け、湿原やタンチョウなどの湿地の生きものを切り口に、他地域の子どもたちとの交流事業を行なっています。今回は、4月に実施した、宮島沼水鳥・湿地センターを拠点に活動している自然戦隊マガレンジャーの子どもたち（マガレン）との交流に続き、1月8日から1泊2日で鶴居村にてタンチョウの観察、交流会を行いました。

鶴居村からは、鶴居村の自然や生物多様性、地域活動について体験を通じて学び、学んだことを地域住民に発信する子どもグループ「サルルンガード」のメンバーを含む計8名が参加し、マガレン9名と交流しました。

初日は鶴見台でのタンチョウ観察、音羽橋でタンチョウのねぐら入りを観察しました。夕焼けの空の中に優雅に飛ぶタンチョウを見つけて、子どもたちは歓声を上げていました。

夕食後に宿泊施設の研修室で、鶴居村とタンチョウのかかわり、歴史に関するVTRや、タンチョウ観察のポイント動画を見ました。少し疲れが見えてきたなか、次に行ったタンチョウ塗り絵でみんなのテンションが一気に上がります。子どもたちは自信満々に絵を塗っていき、最後にお互いのイラストを見ながら答え合わせを行うと、みんなそれぞれ違った色合いでびっくり、大盛り上がりです。大盛況の中、初日の活動を終えることが出来ました。

2日目は早朝から音羽橋に向かい、ねぐらにいるタンチョウを観察しました。鶴居の参加者の中には、マガレンのメンバーたちと4月に交流がある子もおり、お互いに覚えていたようで久しぶりの再会を喜んでいました。また、鶴居の子どもたちの中には、早朝の音羽橋でタンチョウを見るのが初めての子もいたため、とてもいい機会になったのではないかと感じました。

次に向かったのは、鶴居・伊藤サンクチュアリの給餌場。実際に目の前で起こる行動を見ながらビンゴを埋める「タンチョウしぐさビンゴ」を行い、子どもたちの興味がより深まっている様子が伝わりました。最後に、ふるさと情報館「みなくる」の研修室にて、サルルンガード活動紹介、マガレンジャー活動紹介を行ない、お互いの理解を深めました。その後に行ったまとめクイズでは、この交流イベントでタンチョウのことを少しでも覚えてもらった様子が伝わりうれしく思いました。

4月の宮島沼での交流に続き、今回の鶴居でのタンチョウ観察を通じて、子どもたちは鶴居村、宮島沼の自然環境の違いや人と野鳥のかかわりについて知ることができたと思います。そして、どちらの地域でも野鳥を大切に守りたいという思いを持つ、同世代の仲間がいるということを交流を通じて感じる事が出来たのではないのでしょうか。



マガレンとサルルンガードの記念写真
1月9日 鶴居・伊藤サンクチュアリ